

■ 平成23年社会生活基本調査結果

本書は、総務省統計局から公表された「平成23年社会生活基本調査結果」を基に、主要項目について、岐阜県の概要をとりまとめたものです。

<総務省統計局 社会生活基本調査関係>

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/index.htm>

<調査の概要>

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/2.htm>

<用語の解説>

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/pdf/kai setua.pdf>

<結果の概要>

【生活時間に関する結果】

1 1日の生活時間の配分

(1) 概観

○ 1次活動時間、3次活動時間は増加、2次活動時間は減少

本県の、15歳以上の人の、1日の生活時間（週全体平均）をみると、睡眠、食事などの1次活動時間は10時間35分、仕事、家事などの2次活動時間は7時間、自由に使える時間である3次活動時間は6時間25分となっている。男女別にみると、1次及び2次活動時間は、女性の方が長く、3次活動時間は男性の方が長い。

前回（平成18年）と比べると、男女とも2次活動時間が減少し、1次活動時間と3次活動時間が増加している。

全国と比べると、本県の2次活動時間は5分（男性4分、女性5分）長い。

表1 1日の生活時間(15歳以上) - 週全体 (単位: 時間. 分)

		総数		男		女	
			増減		増減		増減
岐阜県	1次活動	10.35	0.06	10.30	0.08	10.40	0.05
	2次活動	7.00	△ 0.17	6.55	△ 0.21	7.04	△ 0.14
	3次活動	6.25	0.11	6.34	0.12	6.17	0.10
全国	1次活動	10.38	0.03	10.31	0.02	10.45	0.05
	2次活動	6.55	△ 0.09	6.51	△ 0.11	6.59	△ 0.07
	3次活動	6.27	0.06	6.38	0.10	6.16	0.02

注：増減は平成18年からの増減

2 1次活動時間

(1) 睡眠時間

○男女ともに土日で増加

1次活動時間の大半を占める睡眠時間は、男性7時間50分、女性7時間33分で、男性の方が17分長くなっている。前回と比べると、土曜日では男性で15分、女性で8分増加している。

表2 曜日別睡眠時間(15歳以上) (単位：時間、分)

		週全体		平日		土曜日		日曜日	
			増減		増減		増減		増減
岐阜県	総数	7.41	0.02	7.30	△ 0.01	8.02	0.11	8.14	0.04
	男	7.50	0.03	7.39	0.01	8.12	0.15	8.23	0.04
	女	7.33	0.01	7.22	△ 0.02	7.53	0.08	8.05	0.03
全国	総数	7.39	0.00	7.29	0.00	7.58	0.05	8.12	△ 0.06
	男	7.46	△ 0.01	7.34	△ 0.01	8.07	0.06	8.23	△ 0.07
	女	7.33	0.01	7.24	0.01	7.51	0.05	8.02	△ 0.04

注：増減は平成18年からの増減

3 2次活動時間

(1) 仕事時間

○男女ともに仕事時間が減少

2次活動の約半分を占める仕事時間を、有業者についてみると、男性6時間53分、女性4時間40分となっており、全国と同様に男性の方が約2時間長い。

前回と比べると、男性は16分、女性は30分減少した。

全国(男性6時間56分、女性4時間50分)と比べると、男性は3分、女性は10分短い。

曜日別にみると、平日が19分、土曜日が31分、日曜日が18分減少している。

表3-1 曜日別仕事時間(有業者) (単位：時間、分)

		週全体		平日		土曜日		日曜日	
			増減		増減		増減		増減
岐阜県	総数	5.56	△ 0.20	7.05	△ 0.19	3.53	△ 0.31	2.10	△ 0.18
	男	6.53	△ 0.16	8.20	△ 0.08	4.14	△ 0.57	2.20	△ 0.09
	女	4.40	△ 0.30	5.28	△ 0.36	3.27	0.01	1.57	△ 0.29
全国	総数	6.02	△ 0.07	7.09	△ 0.07	4.01	△ 0.14	2.24	△ 0.01
	男	6.56	△ 0.04	8.17	△ 0.02	4.35	△ 0.16	2.37	0.03
	女	4.50	△ 0.10	5.41	△ 0.11	3.16	△ 0.11	2.07	△ 0.05

注：増減は平成18年からの増減

(2) 家事関連時間

○依然として大きな男女差

家事関連(家事、介護・看護、育児及び買い物)の時間を合計して、男女別にみると、男性が47分、女性が3時間44分で、全国同様、依然として女性が男性を大きく上回っている。

表3-2 曜日別家事関連時間(15歳以上) (単位:時間.分)

		週全体		平日		土曜日		日曜日	
			増減		増減		増減		増減
岐阜県	総数	2.19	0.02	2.14	0.02	2.28	△ 0.01	2.43	0.07
	男	0.47	0.04	0.36	0.01	1.02	0.03	1.22	0.09
	女	3.44	△ 0.01	3.42	0.01	3.47	△ 0.03	3.59	0.07
全国	総数	2.16	0.02	2.12	0.03	2.23	△ 0.02	2.34	0.05
	男	0.43	0.04	0.34	0.03	0.59	0.04	1.11	0.04
	女	3.45	0.01	3.43	0.01	3.47	△ 0.04	3.52	0.03

注:増減は平成18年からの増減

4 3次活動時間

(1) 休養等自由時間活動の時間

○休養等自由時間活動の時間は前回より増加

3次活動時間のうち休養等自由時間活動(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ)の時間は4時間01分で、3次活動時間の約6割を占めている。

(2) 積極的自由時間活動の時間

○積極的自由時間活動の時間は男性が女性より長い

積極的自由時間活動(学習・自己啓発・訓練、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動)の時間をみると1時間08分で、男女別にみると、男性は1時間15分、女性は1時間02分で男性が13分長くなっている。

表4 自由時間活動の時間(15歳以上) (単位:時間.分)

		3次活動					
				休養等自由時間活動		積極的自由時間活動	
				増減	増減	増減	増減
岐阜県	総数	6.25	0.11	4.01	0.05	1.08	0.02
	男	6.34	0.12	4.12	0.13	1.15	0.00
	女	6.17	0.10	3.53	0.01	1.02	0.04
全国	総数	6.27	0.06	4.00	0.09	1.11	△ 0.01
	男	6.38	0.10	4.04	0.10	1.24	0.01
	女	6.16	0.02	3.57	0.08	0.59	△ 0.03

注:増減は平成18年からの増減

【生活行動に関する結果】

1 学習・自己啓発・訓練

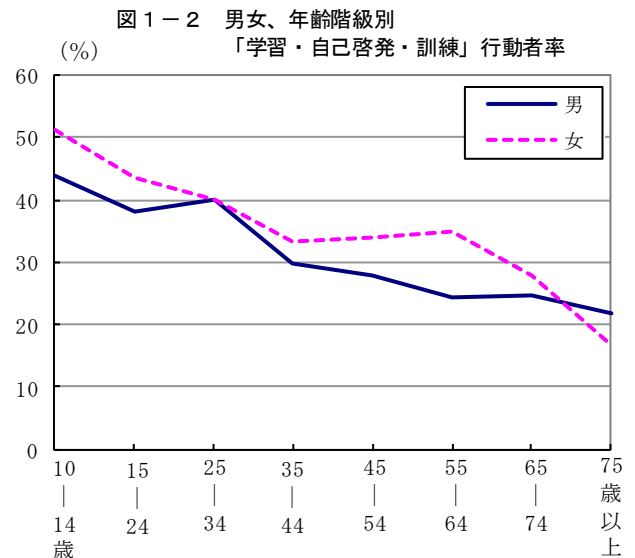
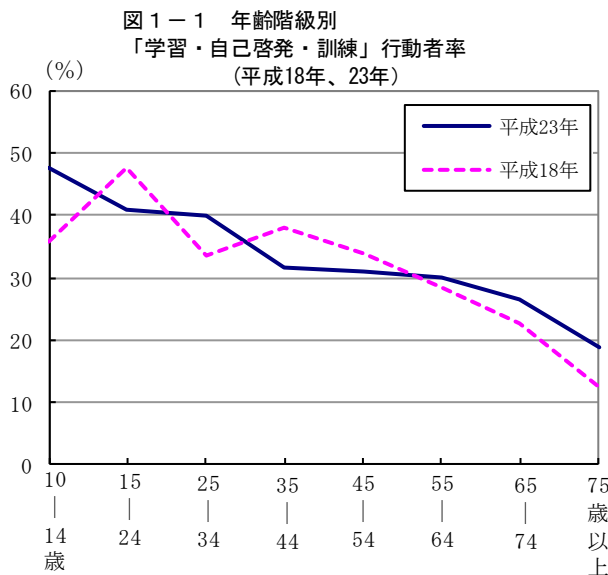
○女性の方が高い行動者率

「学習・自己啓発・訓練」の行動者数は58万9千人で、行動者率は31.9%となっている。男女別にみると、男性が30.2%(行動者数27万人)、女性が33.4%(同31万9千人)となっており、女性が3.2ポイント高くなっている。

行動者率を前回と比べると、0.2ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が0.5ポイントの低下、女性が0.9ポイントの上昇となっている。

全国(35.2%)と比べると、本県は3.3ポイント低く、順位は22位となっている。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が47.5%と最も高く、45歳以上は年齢が高くなるにつれて低下している。男女別にみると、25～34歳、75歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。

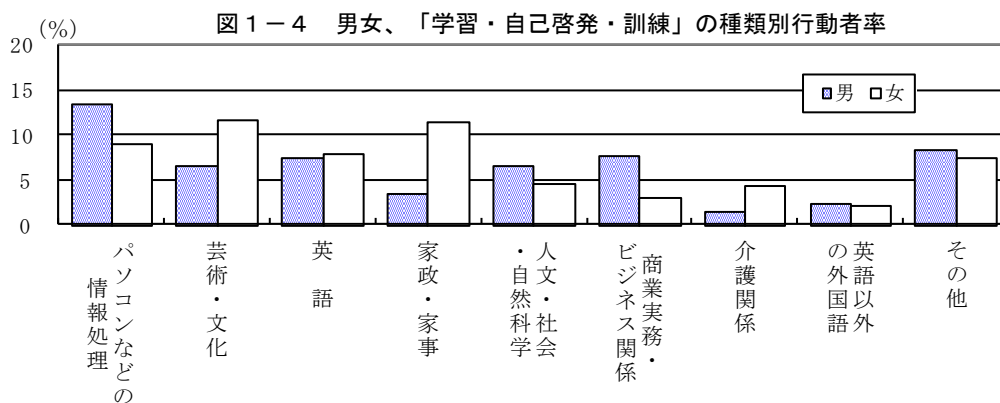
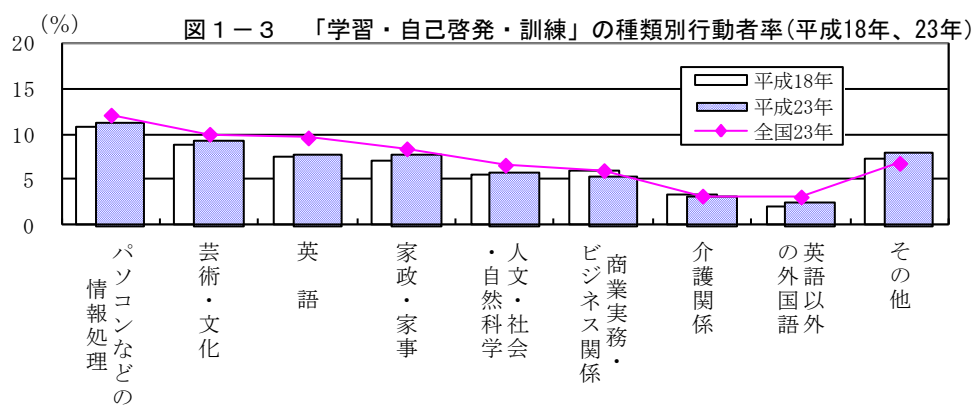


注：「学習・自己啓発・訓練」は社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業(授業、予習、復習)として行うものは除き、クラブ活動や部活を含む。

○「商業実務・ビジネス関係」は行動者率が低下

「学習・自己啓発・訓練」の種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が11.2%と最も高く、次いで「芸術・文化」(9.2%)、「英語」(7.7%)などとなっている。

前回と比べると「商業実務・ビジネス関係」は0.7ポイント低下、「家政・家事」は0.6ポイント上昇などとなっている。男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が最も高く、次いで「商業実務・ビジネス関係」、「英語」などとなっている。女性は「芸術・文化」が最も高く、次いで「家政・家事」、「パソコンなどの情報処理」などとなっている。



2 ボランティア活動

○行動者率は全国を上回り、順位は7位

「ボランティア活動」の行動者数は60万6千人で、行動者率は32.8%となっている。男女別にみると、男性が31.4%（行動者数28万人）、女性が34.2%（同32万6千人）と女性が2.8ポイント高くなっている。

前回と比べると、行動者率は0.8ポイント上昇（男性1.5ポイント、女性0.2ポイント上昇）している。

全国（26.3%）と比較すると、本県は6.5ポイント高く、順位は7位となっている。

行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が44.5%と最も高く、男女別にみると、10～54歳までのほとんどの階級で女性の方が高く、以降は男性の方が高くなっている。

図 2-1 年齢階級別「ボランティア活動」行動者率(平成18年、23年)

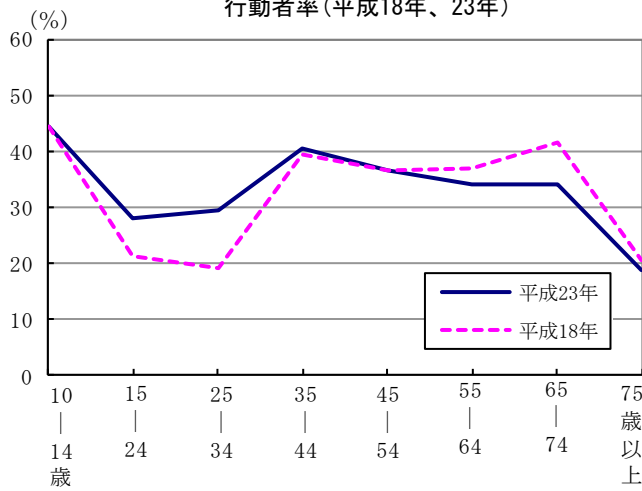
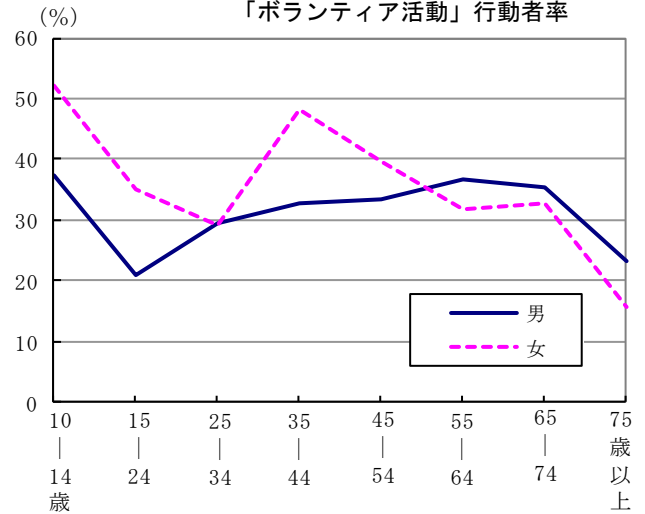


図 2-2 男女、年齢階級別「ボランティア活動」行動者率



○ 「子供を対象とした活動」、「災害に関係した活動」で行動者率が上昇

「ボランティア活動」の種類別行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が 17.4%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」(9.9%)、「安全な生活のための活動」(6.6%)などとなっている。前回と比べると「子供を対象とした活動」は3.5ポイント、「災害に関係した活動」は2.6ポイント上昇している。男女別にみると、男女ともに「まちづくりのための活動」が最も高く、男性は「安全な生活のための活動」、女性は「子供を対象とした活動」が続いている。全国と比べると、最も高い「まちづくりのための活動」は全国(10.9%)を6.5ポイント上回っている。

図 2-3 「ボランティア活動」の種類別行動者率(平成18、23年)

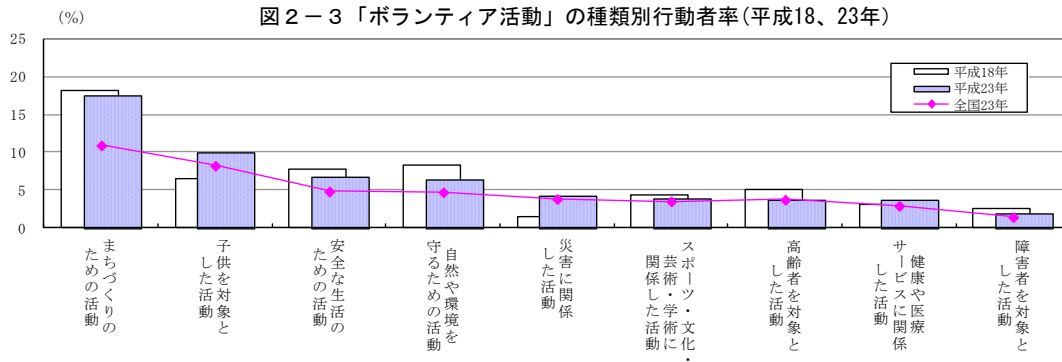
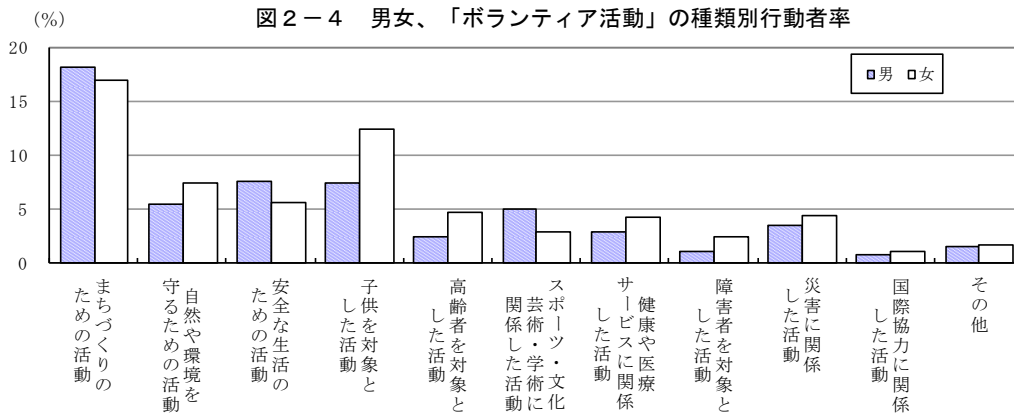
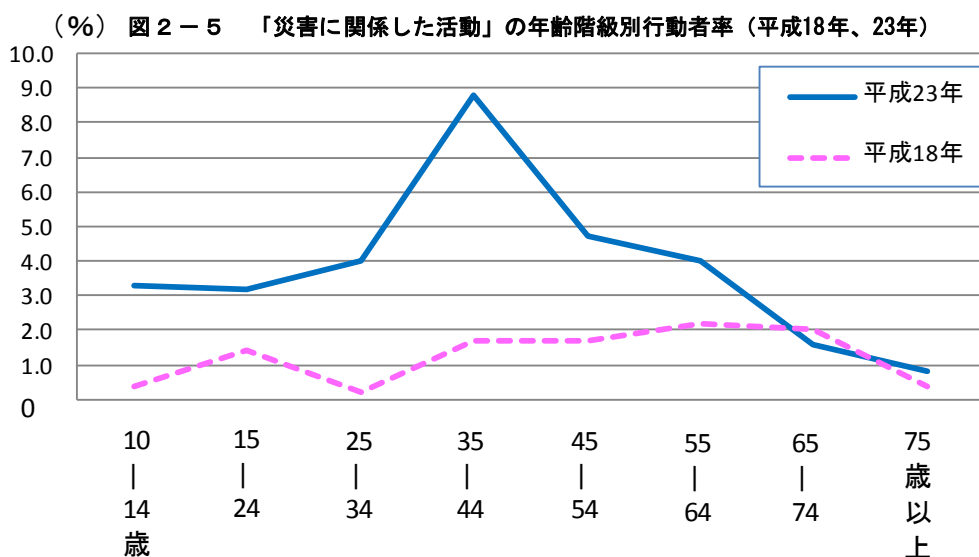


図 2-4 男女、「ボランティア活動」の種類別行動者率



○「災害に関係した活動」の行動者率が上昇

「災害に関係した活動」の行動者率を年齢階級別に、前回と比べると、ほとんどの階級で上昇しており、25～34歳で3.8ポイント、35～44歳で7.1ポイント、上昇している。



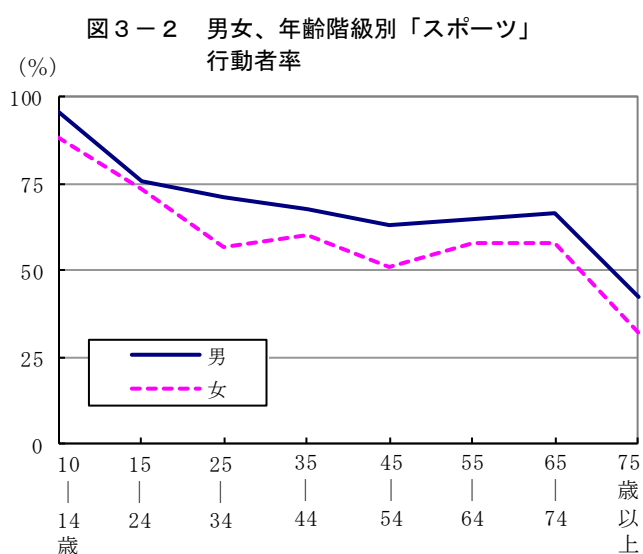
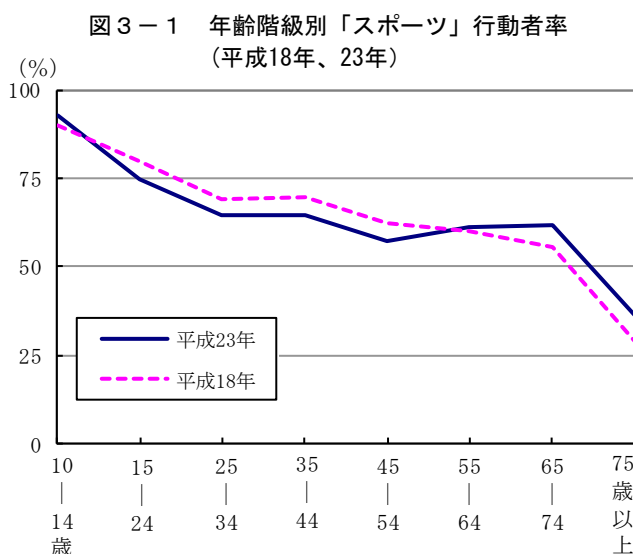
3 スポーツ

○若年層で高い行動者率

「スポーツ」の行動者数は114万人で、行動者率は61.7%となっている。男女別にみると、男性が67.0%(行動者数59万8千人)、女性が56.8%(同54万2千人)となっており、男性が10.2ポイント高くなっている。前回と比べると1.5ポイント低下しており、男女別には、男性が1.3ポイントの低下、女性が1.7ポイントの低下となっている。

全国(63.0%)と比べると、本県は1.3ポイント低く、順位は24位となっている。

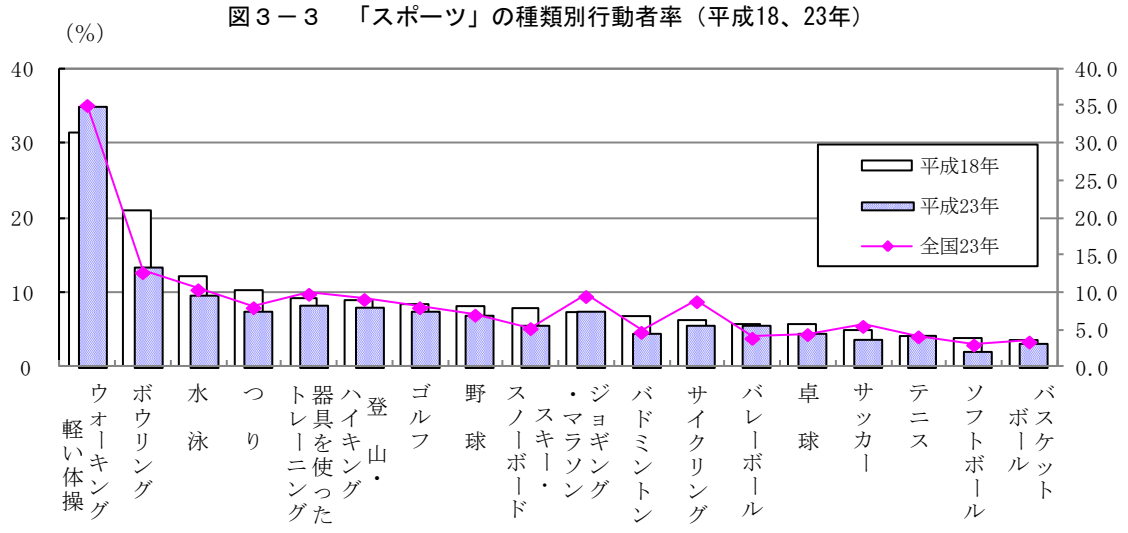
行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が92.4%と最も高く、おおむね年齢が高くなるにつれて低下している。男女別にみると、すべての年齢階級で男性の方が高くなっている。



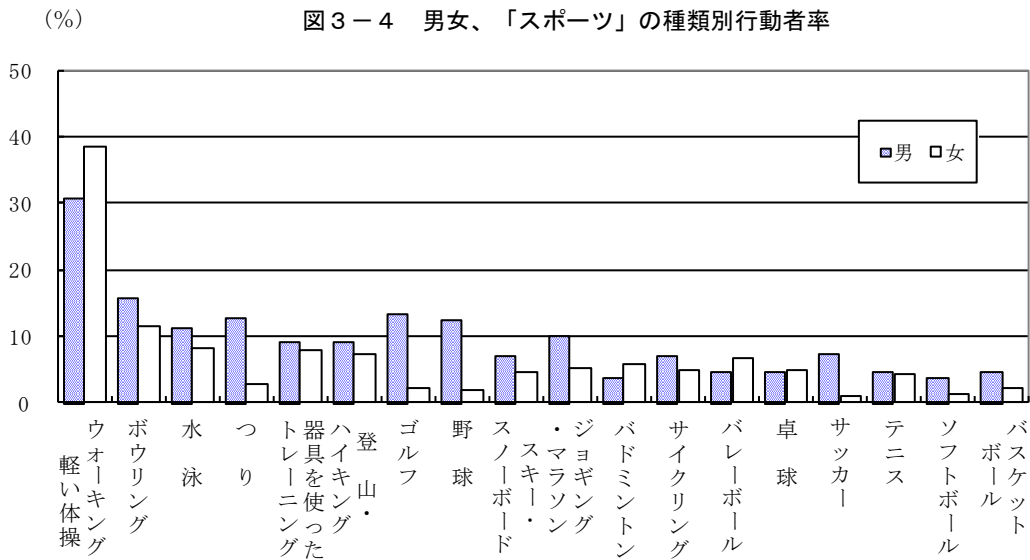
○ほぼすべての種類で低下した行動者率

「スポーツ」の種類別に行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が34.7%と最も高く、次いで「ボウリング」（13.5%）、「水泳」（9.6%）などとなっている。男女別にみると、男女ともに「ウォーキング・軽い体操」、次いで「ボウリング」などの順となっている。

前回と比べて増加したのは、「ウォーキング・軽い体操」、「ジョギング」、「テニス」のみで、それ以外は、減少している。



注：行動者率が3%以上の種類を表章。



注：行動者率が3%以上の種類を表章。

4 趣味・娯楽

○8割超が「趣味・娯楽」を行う

「趣味・娯楽」の行動者数は154万8千人で、行動者率は83.8%となっている。男女別にみると男性が84.1%（行動者数75万1千人）、女性が83.4%（同79万6千人）で、女性が0.7ポイント高くなっている。前回と比べると、行動者率は0.4ポイント低下しており、男女別には、男性が0.2ポイント上昇し、女性が1.1ポイント低下している。

全国（84.8%）と比較すると、本県は1.0ポイント低く、順位は21位となっている。

行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳が最も高く、おおむね年齢が高くなるにつれて低下している。男女別にみると、45歳以上のすべての年齢階級で女性の方が低くなっている。

図4-1 年齢階級別「趣味・娯楽」行動者率
(平成18年、23年)

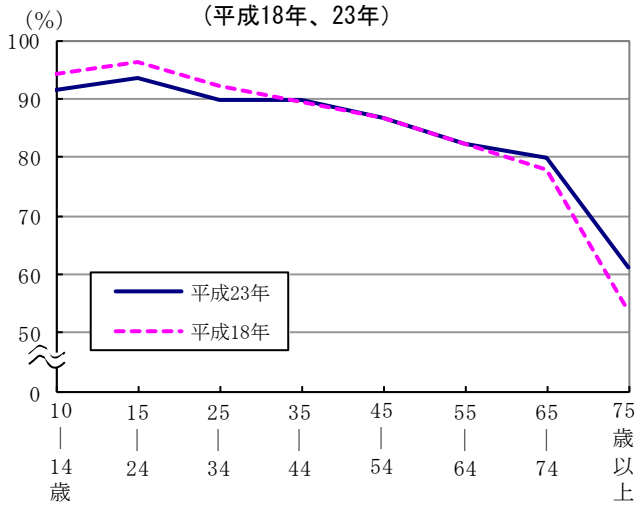
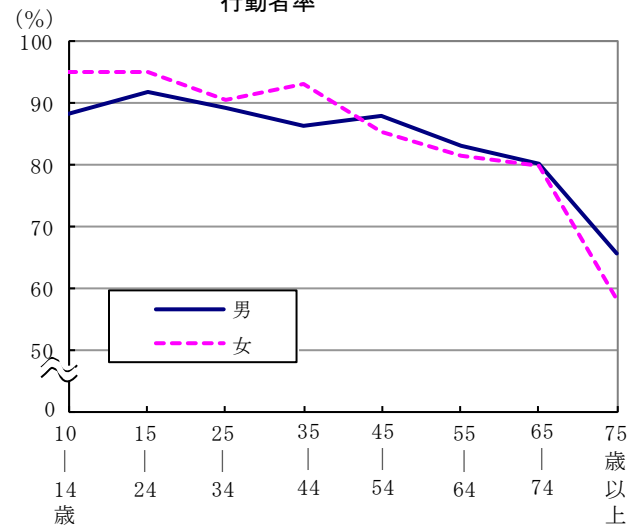


図4-2 男女、年齢階級別「趣味・娯楽」行動者率



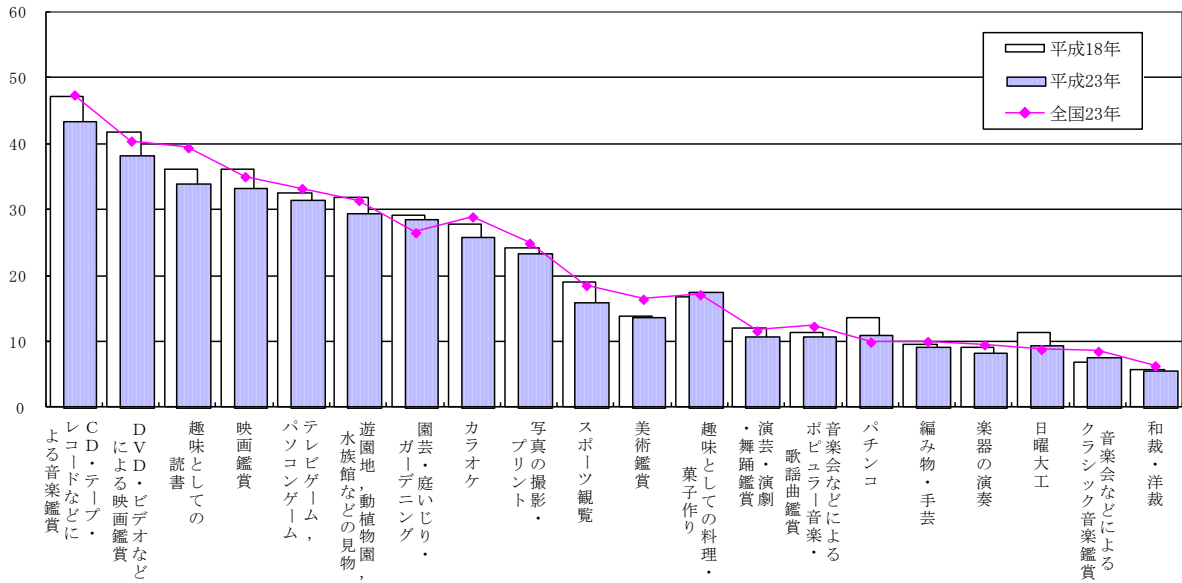
○ほとんどの種類で行動者率が低下

「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、「CDなどによる音楽鑑賞」が43.4%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」(38.2%)、「趣味としての読書」(34.1%)などとなっている。これを男女別にみると、男女ともに「CDなどによる音楽鑑賞」が最も高く、次いで男性は「DVDなどによる映画鑑賞」、「テレビゲーム、パソコンゲーム」、女性は「趣味としての読書」、「DVDなどによる映画鑑賞」となっている。

前回と比べると、「CDなどによる音楽鑑賞」(3.8ポイント低下)、「DVDなどによる映画鑑賞」(3.6ポイント低下)など、ほとんどの種類で前回は下回る中で、「音楽会などによるクラシック音楽鑑賞」は0.9ポイント、「趣味としての料理・菓子作り」が0.8ポイントの上昇となっている。

(%)

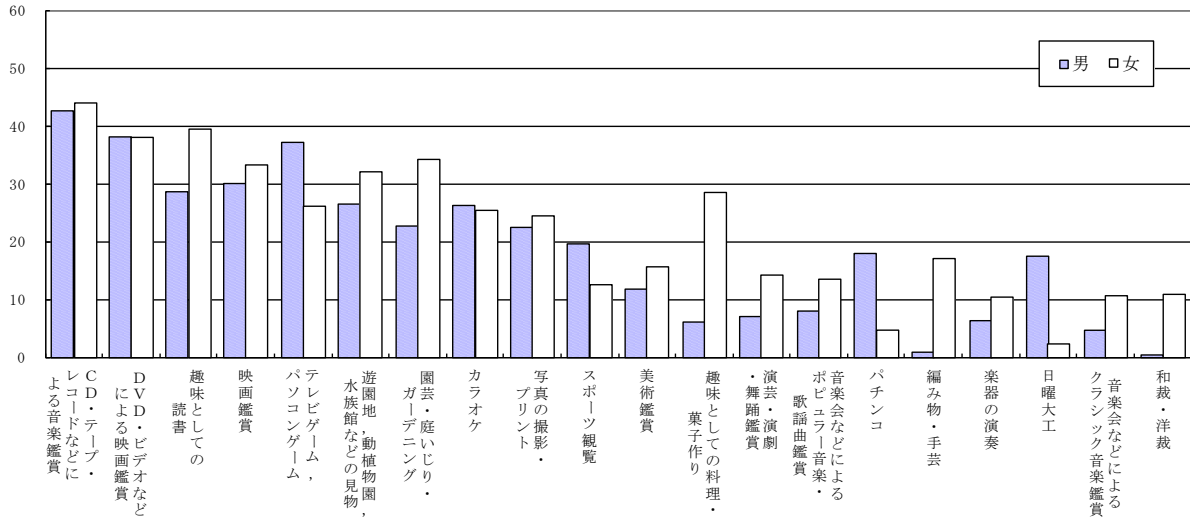
図4-3 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成18年、23年）



注：行動者率が10%以上の種類を表章。

(%)

図4-4 男女、「趣味・娯楽」の種類別行動者率



注：行動者率が10%以上の種類を表章。

○平均行動日数は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も多い

平均行動日数をみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が44.6日と最も多く、次いで「国際協力に関係した活動」が43.8日などとなっている。前回と比べると、「国際協力に関係した活動」、「自然や環境を守るための活動」、「障害者を対象とした活動」、「高齢者を対象とした活動」などが増加している。

5 旅行・行楽

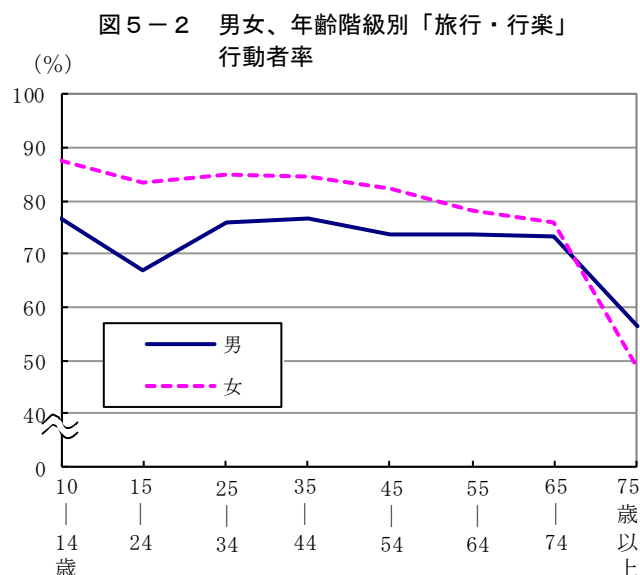
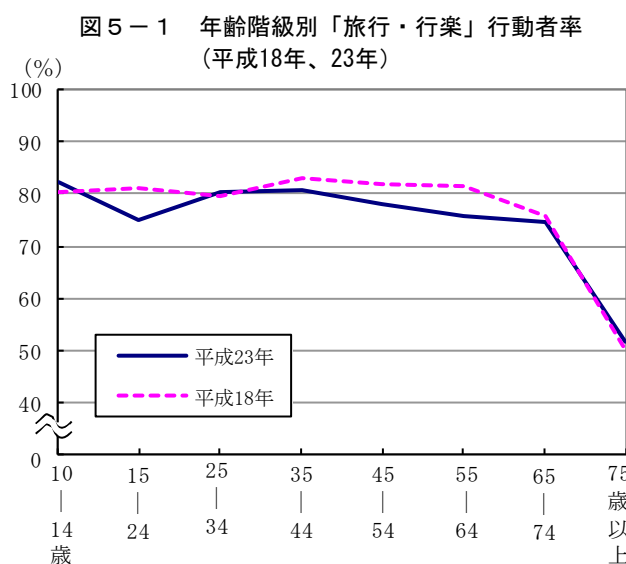
○行動者率は全国を上回り、順位は11位

「旅行・行楽」の行動者数は137万8千人で、行動者率は74.6%となっている。男女別にみると、男性が72.0%（行動者数64万3千人）、女性は77.0%（同73万5千人）で、女性が5.0ポイント高くなっている。

前回に比べると行動者率は2.9ポイント低下しており、男女別にみると、男性が4.5ポイント、女性が1.3ポイントの低下となっている。

全国（73.2%）と比較すると、本県は1.4ポイント高く、順位は11位となっている。

行動者率を年齢階級別にみると、10歳から74歳までの年齢階級においてはほぼ75%を超え、35～44歳で80.6%と最も高くなっている。男女別にみると10～74歳のすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。



○6割超が行楽（日帰り）

「旅行・行楽」の種類別行動者率をみると、「行楽（日帰り）」が63.3%、観光旅行では国内が46.9%、海外が6.7%となっている。これを男女別にみると、「行楽（日帰り）」、国内及び海外の「海外旅行」で女性の方が高くなっている。

前回と比べると、「帰省・訪問など旅行（国内）」は3.5ポイント低下、「観光旅行（国内）」は1.7ポイント低下などどなっており、「行楽（日帰り）」を除くすべての種類で行動者率が低下している。

全国と比べると、「行楽（日帰り）」は全国（58.3%）を5.0ポイント、「観光旅行（国内）」は全国（45.4%）を1.5ポイント上回っている。

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成18年、23年）

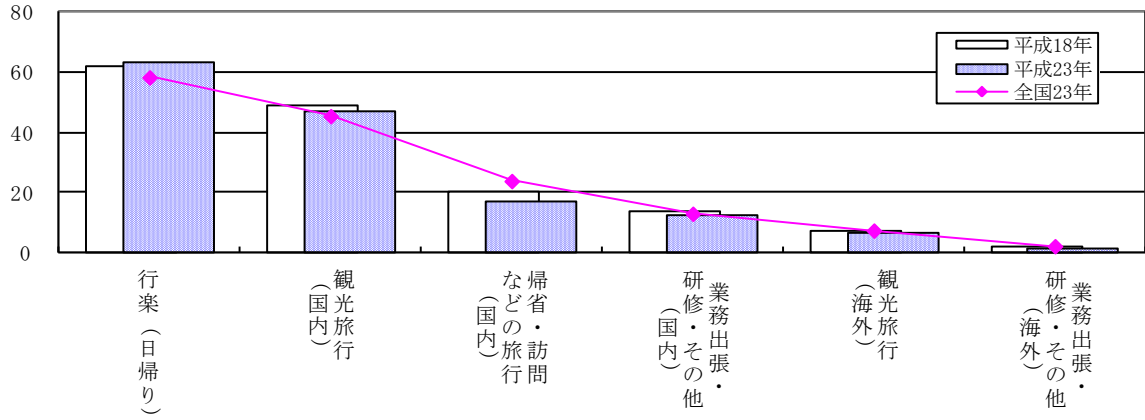


図5-4 男女、「旅行・行楽」の種類別行動者率

